
パラベラム・ボーイ

インヴァイス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パラベラム・ボーイ

【Nコード】

N9095Y

【作者名】

インヴァイス

【あらすじ】

銃を拾った二人の少年の物語。

「どうしようか」

「俺に言うなそんなこと……」

目の前に置かれた銃。黒く光りを放つそのブツは、二人に手に持つまでもなく重みを伝えた。

マサルの部屋の中には中学生らしく、本やゲームしかない。その中で机に置いてある銃は明らかに異様であった。

「アキラ」

「なんだよ」

「これ、本物かな」

「知るかよ……。だって、さっき拾ったばかりだよ」

中学校の帰り道の脇に落ちていた。

アキラが普段は通らない茂道を通って帰ろうと言った。その時にマサルが見つけた物だ。

草むらの中に身をひそめるようにしてあったソレは、二人に言いようのない興奮を与えた。しかし、暫くして興奮がさめるとともに自分たちがとつもないことをしているのではないのだろうかという恐怖に駆られ始めた。

普通なら誰かがエアアームを落としたということが当たり前な考えだろう。

「でもよ……、これ……、すげえ重いよ」

「本物触ったことあんのかよ」

「あるわけねえだろ」

「そうだよな」

二人にはエアアームを買う金ではなく、エアアームを見たこともなかった。それゆえにそれがエアアームなのか、それとも本物なのかの区別する方法が分からずにいた。

思っていたよりの重さで二人は動揺を隠せずにいた。

ラジオから流れるJ・POPが室内を静かに満たす。

「どうしよう」

「撃ってみたらどうだよ」

「本物だったらどうすんだよ」

「かけえじゃん」

「犯罪になるんじゃないの？」

弱腰なアキラに比べ、マサルは銃に興味を隠せずにいた。

初めて手に入れた銃。

マサルはそれが本物なのか、エアガンなのか、それともただの玩具なのかはどうでもよかった。

田舎に住むマサルにとって、それはすごく魅力的なものであった。

「じゃあさ、俺が撃ってみる」

「やめとけよ」

「なんでだよ」

「本物だった時、どうすんだよ」

「その時は警察にでも持っていけばいいんだよ」

「だったら撃つたらまずいじゃん」

「どうしてだよ」

「撃つたらきつと犯罪だぜ」

それは……と、マサルも口を塞ぐ。

アキラだけでなく、マサルにも大した勇氣はなかった。

「じゃあ、確かめようもないな」

「そうだな」

「振り出しに戻ったな」

「そうだな」

音楽が終わりを告げると、それと同時に次はCMが室内を満たした。

数分もするとそれも終わり、聞きなれたパーソナリティがいつもと同じような口調で話した。

「なあ、マサル」

「なんだよ」

「これ元の場所に返そうぜ」

「マジかよ……」

初めて手に入れた物欲を満たしてくれる銃。

本物かもしれないという、恐怖を与える銃。

二つの思いがマサルの中を拮抗していた。

「……」

「それにさ。これがエアガンだったとしても誰か持ち主がいると思っんだ」

「……」

「きつと探していると思っぜ」

「……そうだな」

返しに行こう。

ああ。

そう言つとアキラは上着を着て、その内側に銃を隠した。マサルもそれでよかった。

ラジオは次の曲を流していた。

茂道までは十分もかからなかった。

人影はなく、木々が周りを囲い、うす暗くさせていた。

「アキラ」

「うん」

上着から出した銃。マサルの部屋に限らず、この茂道にもそれが似合うことはなかった。

「たしかここらだよな」

アキラはそれを思い切り投げた。重みのおかげで力の弱いアキラでも十分に飛ばすことができ、二人の悩みの種は草むらの中へと姿を消した。

「なんか、もつたいない気もしたな」

「マサル」

「分かってるよ」

俺には必要のないものだよ。

マサルはどこか口惜しげながらも自分にそう言い聞かせた。

「さて、どこか遊びに行きますか」

「それなら前買ったゲームやろうぜ」

「また俺が勝って終わるけどな」

「マサル勝ったことないじゃん」

「うるさい」

アキラもマサルも先ほどまでの不安げな気持ちは消え、顔は笑顔で満ちていた。

「さあ！ 家に戻ろう」

「ああ」

二人は駆けるようにして、来た道に戻っていった。

(後書き)

お読みいただきありがとうございます

ツイッターの方で情報等を提供していたりしますので、よろしければご覧ください

Twitter: aurai_inparadox

ブログの方始めましたので、よろしく願います

<http://aurainparadox.blog.fc2.com/>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9095y/>

パラバラム・ボーイ

2011年11月27日06時59分発行